

第2章 市のスポーツの現状と課題

本市のスポーツの現状と課題について、これまでの取組とスポーツ関係団体の活動状況から整理しました。また、市民意識調査を実施し、市民のスポーツに対する意識や実施状況などから本市のスポーツの現状と課題を整理しました。

第1節 これまでの取組

(1) 市民大会

平成30年度に開催した市民大会には、次のようなものがありました。また、過去5年間の参加登録者数の推移は、下表のとおりとなっています。

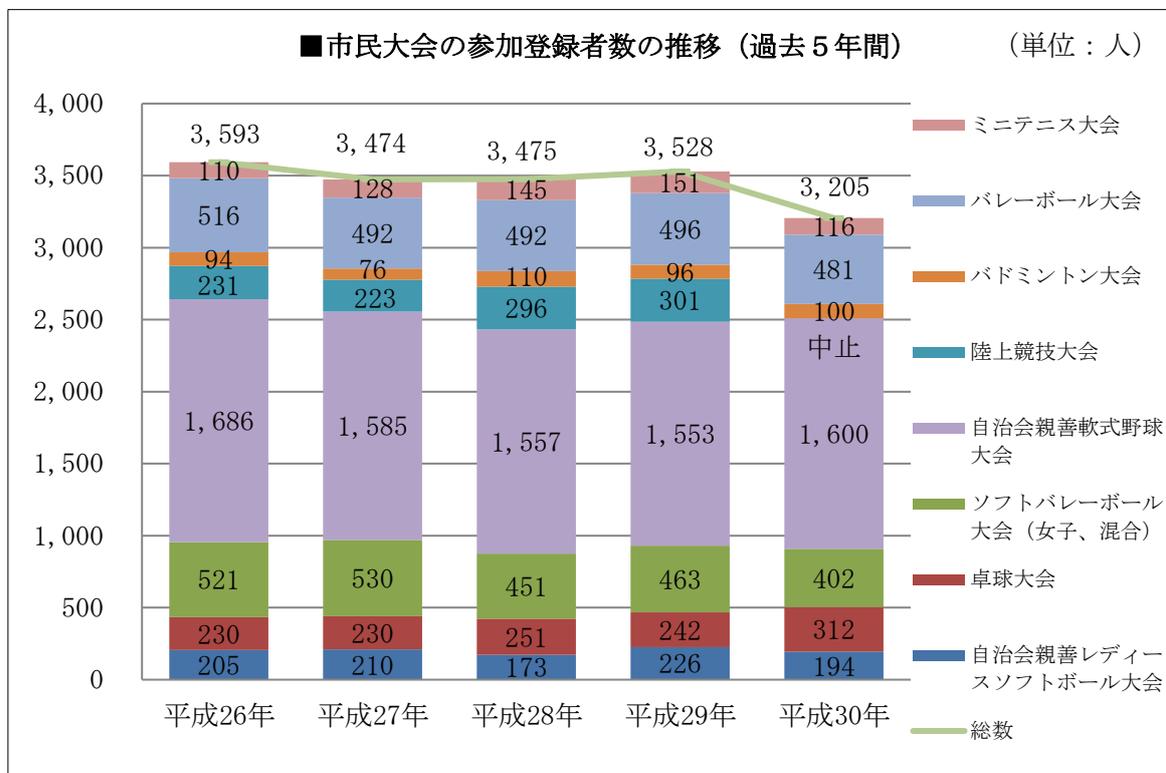
■市民大会（平成30年度）

（単位：人）

時期	大会名	主催	参加登録者数
4月	自治会親善レディースソフトボール大会	市	194
6月	市民卓球大会	卓球協会	312
7月	市民ソフトバレーボール大会（女子の部）	ソフトバレーボール連盟	80
8・9月	自治会親善軟式野球大会（5日間）	市	1,600
9月	市民陸上競技大会	陸上競技協会	雨天中止
11月	市民バドミントン大会	バドミントン協会	100
11月	市民バレーボール大会	市	481
2月	市民ソフトバレーボール大会（混合の部）	ソフトバレーボール連盟	322
3月	市民ミニテニス大会	市	116
TOTAL			3,205

■市民大会の参加登録者数の推移（過去5年間）

（単位：人）



◎現状

市民大会の参加登録者の総数は、ほぼ横ばいで推移しています。

卓球大会や陸上競技大会などの個人種目の参加登録者数は増加していますが、ソフトバレーボールなどの団体種目の参加登録者数は減少しています。

◎課題

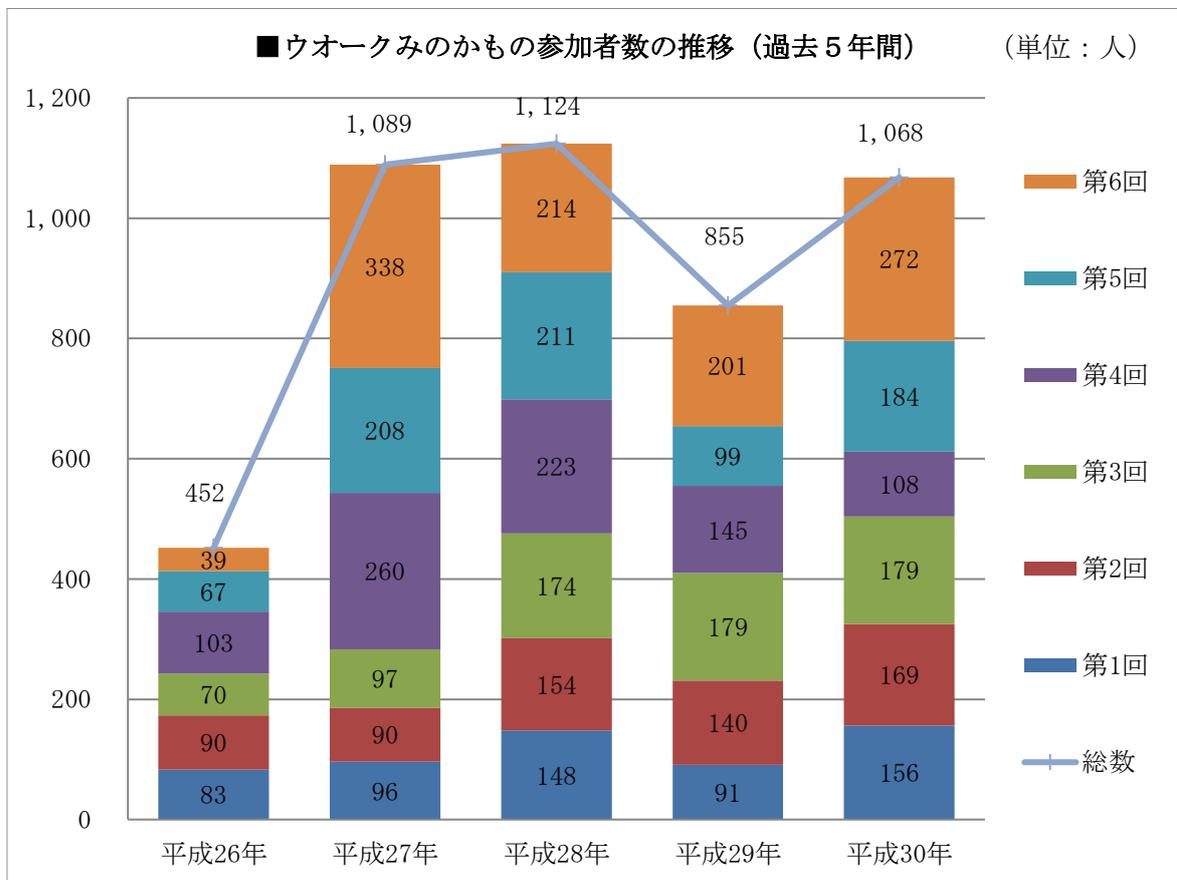
参加登録者数が伸び悩む中、未経験者でも気軽に参加できる大会（例えば、レクリエーションスポーツ大会）の新規開催や参加要件の見直しを行い、多様な市民大会となるように、質、量ともに充実させていく必要があります。

(2) ウォークみのかも

平成30年度に開催したウォークみのかもには、次のようなものがありました。また、過去5年間の参加者数の推移は、下表のとおりとなっています。

■ウォークみのかも（平成30年度） (単位：人)

時期	行事名	コース名	参加者数
4月	第1回ウォークみのかも	三和コース	156
5月	第2回ウォークみのかも	蜂屋コース	169
6月	第3回ウォークみのかも	山之上コース	179
10月	第4回ウォークみのかも	古井（健康フェスティバル）コース	108
12月	第5回ウォークみのかも	ぎふ清流里山公園コース 新規	184
3月	第6回ウォークみのかも	木曾川周遊コース 新規	272
TOTAL			1,068



◎現状

平成30年度12、3月期に新規コースで開催し、参加者も増加しています。また、令和元年度から年8回開催し、更なる事業の拡大を図っています。

◎課題

子どもから高齢者まで誰でも手軽にできるウォーキングを、イベントだけで終わらせるのではなく、市民が自主的に日常生活の中で取り組めるような事業に発展させていく必要があります。

(3) スポーツ教室「ちゅうたいクラブ」

スポーツを楽しむ、日常生活の一部として健康の維持と増進を図るために、3か月を実施単位として週1回程度実施するスポーツ教室「ちゅうたいクラブ」を実施しました。

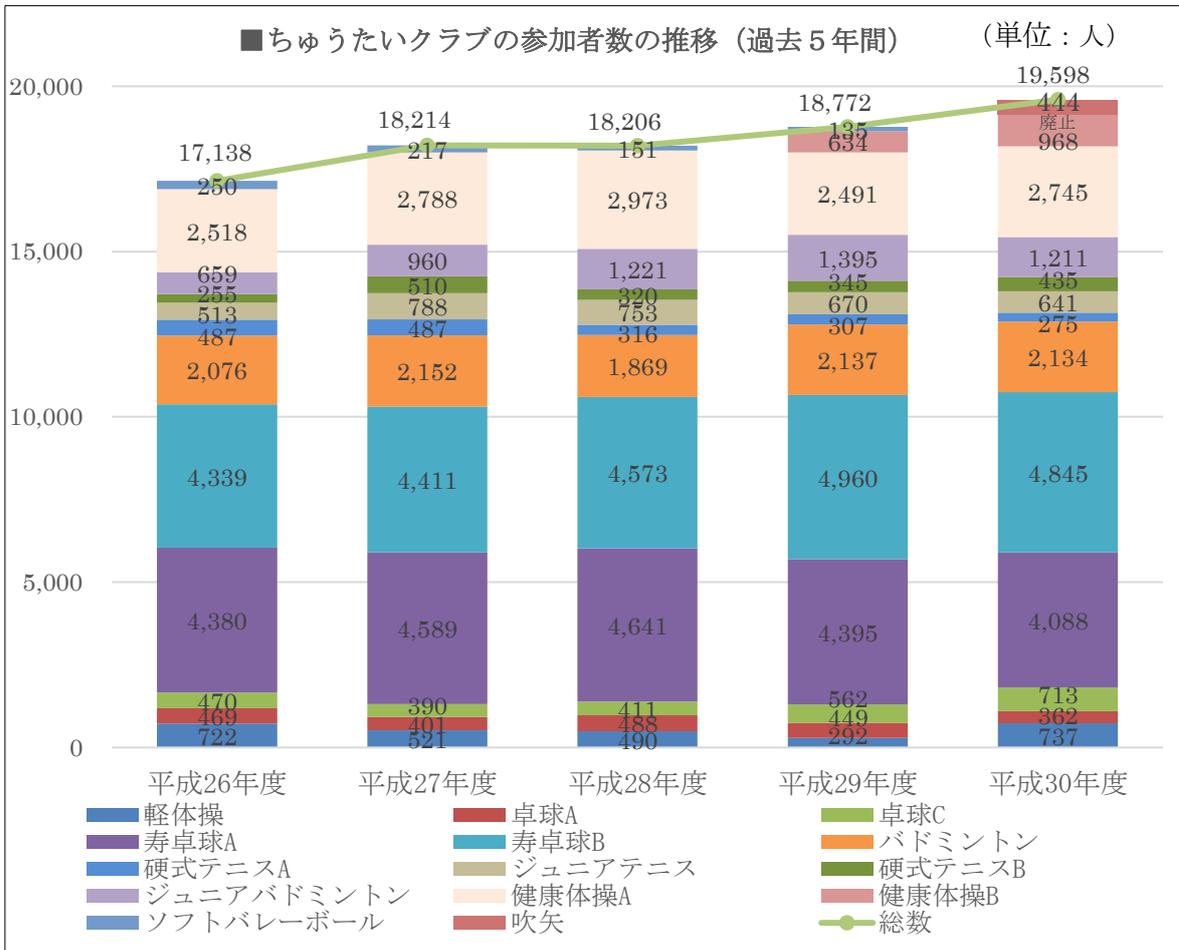
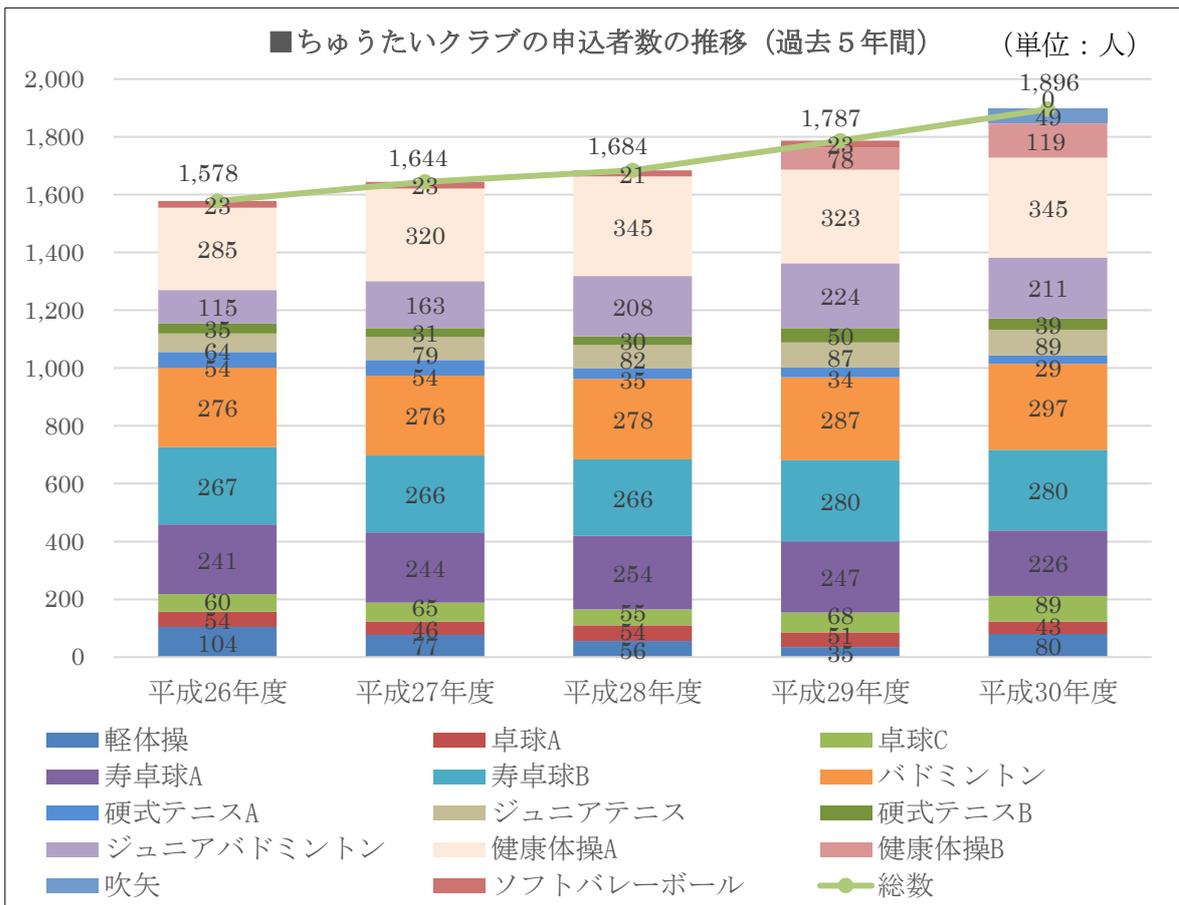
なお、平成30年度実施のちゅうたいクラブには、下表のようなものがありました。

また、過去5年間の申込者数及び参加者数の推移は、次頁の表のとおりとなります。

■ちゅうたいクラブ（平成30年度）

（単位：人）

教室名	曜日	対象者	申込者数	参加者数
軽体操	火	小学生	80	737
卓球A	水	16歳以上	43	362
卓球C	火	中学生以上	89	713
寿卓球A	火・金	50歳以上	226	4,088
寿卓球B	火・金	50歳以上	280	4,845
バドミントン	木	16歳以上	297	2,134
硬式テニスA	日	16歳以上	29	275
ジュニアテニス	日	小学4～6年生	89	641
硬式テニスB	土	中学生以上	39	435
ジュニアバドミントン	土	小学4～中学3年生	211	1,211
健康体操A	金	16歳以上	345	2,745
健康体操B	水	16歳以上	119	968
吹矢	水	16歳以上	49	444
TOTAL			1,896	19,598



◎現状

本事業は、スポーツの日常化を図ることができ、スポーツ実施率の向上に繋がる重要な事業となるため、これまで種目の新設や廃止を積極的に行ってきました。その結果、申込者及び参加者の総数はともに増加傾向にあり、着実に市民生活に根付いてきています。

◎課題

年齢や性別を問わず、市民の誰もが生涯にわたりスポーツに親しめるように、それぞれのライフステージに見合う種目を提供していく必要があります、市民ニーズをより一層、的確に把握していくことが必要となっています。

第2節 スポーツ関連団体の活動状況

本市には、次のようなスポーツ関係団体や組織が活動しており、本市のスポーツ推進の一翼を担っています。

①市スポーツ協会（令和2年4月1日「市体育協会」から名称変更）

◎現状

昭和33年6月に美濃加茂市体育協会として創立され、平成30年度には60周年の節目を迎えました。そして、令和2年4月には「美濃加茂市スポーツ協会」に名称が変更されます。平成30年度現在、加盟団体は28団体で、会員数は4,875人にのぼります。

本会は、スポーツの普及と振興を目指し、各種スポーツ教室の開催、功労者や優秀選手などの表彰のほか、市内で開催される市民大会の運営など、様々な事業を通じて競技力の向上と競技の普及に努めています。

また、毎年5月には市体育協会体育大会、7月には地区体育協会体育大会、そして9月には県民スポーツ大会に参加し、多くの種目で良い成績を収めています。

◎課題

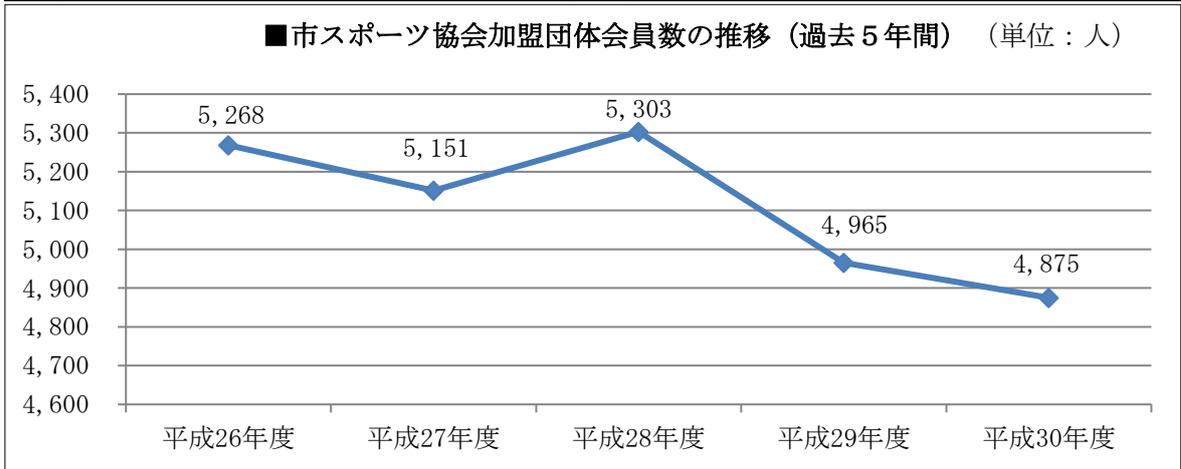
若手指導者の育成や専門的な知識・技術を習得するための研修会の開催など、スポーツにおける競技力の向上や一層の競技の普及につながる取組が必要となっています。

■市スポーツ協会加盟団体一覧（28団体）

（令和元年度）

No.	団体名	No.	団体名
1	柔道協会	15	スキー連盟
2	剣道連盟	16	クレイ射撃協会
3	軟式野球連盟	17	山岳会
4	陸上競技協会	18	テニス協会
5	卓球協会	19	ソフトボール協会
6	バレーボール協会	20	水泳協会（休止）
7	ソフトテニス連盟	21	アーチェリー協会
8	サッカー協会	22	綱引連盟
9	ラグビー協会	23	グラウンドゴルフ協会
10	バドミントン協会	24	ゴルフ協会
11	弓道連盟	25	パワーリフティング協会
12	レスリング協会	26	ボート協会

13	少林寺拳法協会	27	カヌー協会
14	空手道協会	28	市スポーツ少年団



■市スポーツ協会の県民スポーツ大会における総合順位（過去5年間）

年度	H26（第7回）	H27（第8回）	H28（第9回）	H29（第10回）	H30（第11回）
総合順位	9位	10位	11位	7位	13位

②市スポーツ少年団

◎現状

令和元年度現在、市スポーツ少年団には21の団体（9種目）が加盟し、558名の団員（市内在住）と238名の登録指導者で構成されています。

地域の子どもたちがスポーツ活動を通して健康な身体と心を養い、スポーツの喜びを学び、その過程で友情や協調性などを育み、人間性豊かな社会人として成長することを目的に活動しています。

全団体が一堂に会して「体力テスト」、「スポーツ少年団大会」、「駅伝大会」などの行事を開催し、団員数減少の抑制に努めています。その結果、団員（市内在住）と登録指導者ともにその数は上昇傾向にあります。

◎課題

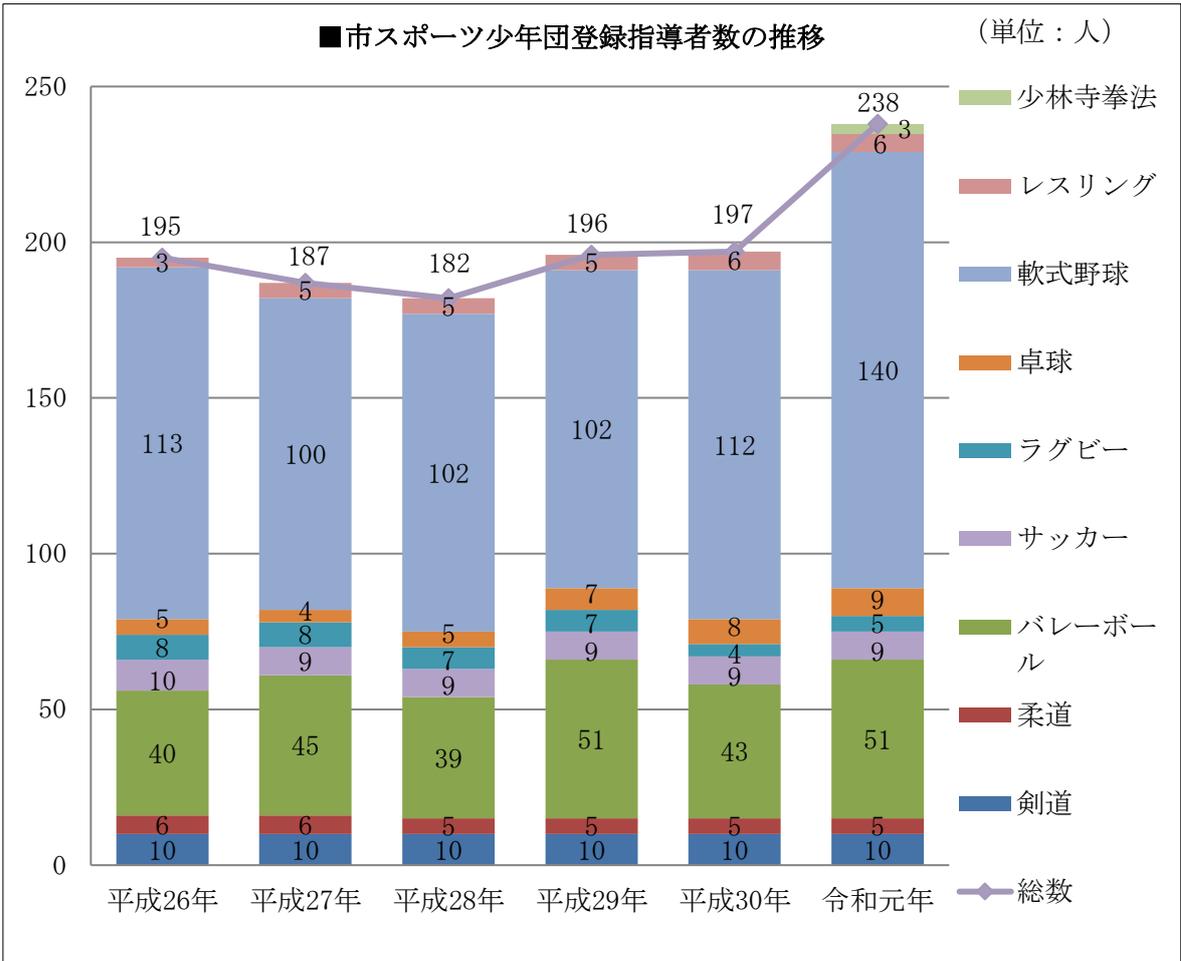
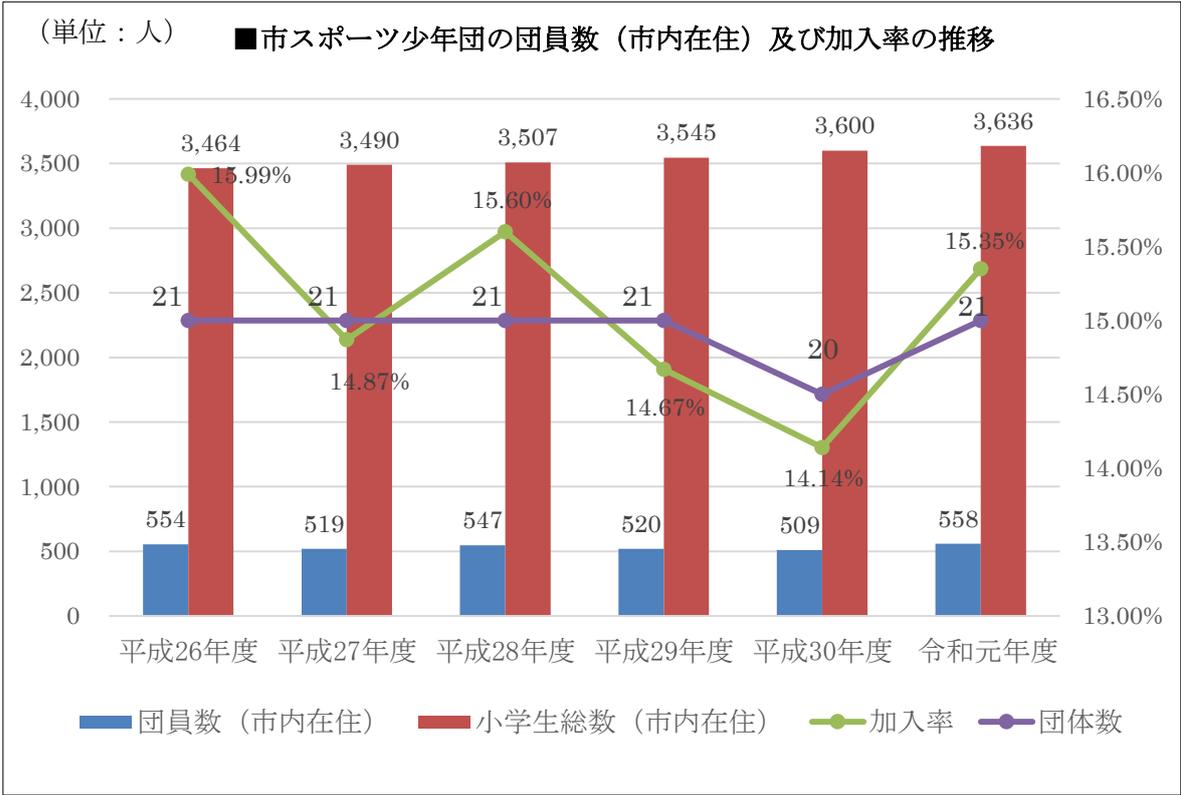
今後も少子化に伴い、団員数の減少が予想される中、より一層の組織運営の工夫が必要となっています。

■市スポーツ少年団関連事業（平成30年度）（単位：人）

時期	行事名	会場	参加者数
6月	市スポーツ少年団体力テスト	プラザちゅうたい	688
8月	市スポーツ少年団大会総合開会式	プラザちゅうたい	700
11月	市スポーツ少年団駅伝大会	前平総合運動場	409
TOTAL			1,797

■市スポーツ少年団に登録されている種目（9種目）

剣道、柔道、バレーボール、サッカー、ラグビー、卓球、軟式野球、レスリング、少林寺拳法
*令和元年度現在



③市スポーツ推進委員連絡協議会

◎現状

本市では令和元年度現在、スポーツ基本法第32条に基づいて各地区から推薦された25名にスポーツ推進委員を委嘱しています。

具体的な活動は、毎月の定例会、可茂地区、岐阜県、東海四県、全国規模の研修会への参加、市民大会やウオークみのかもなどのイベントの運営、レクリエーションスポーツの出前講座などがあります。

◎課題

スポーツ推進委員には、既存のイベントの運営のみならず、スポーツ推進施策の企画立案にも参画するとともに、市民の身近な立場から行政と市民との調整を図るコーディネーターとなることが求められています。

④地区体育振興会（8地区）

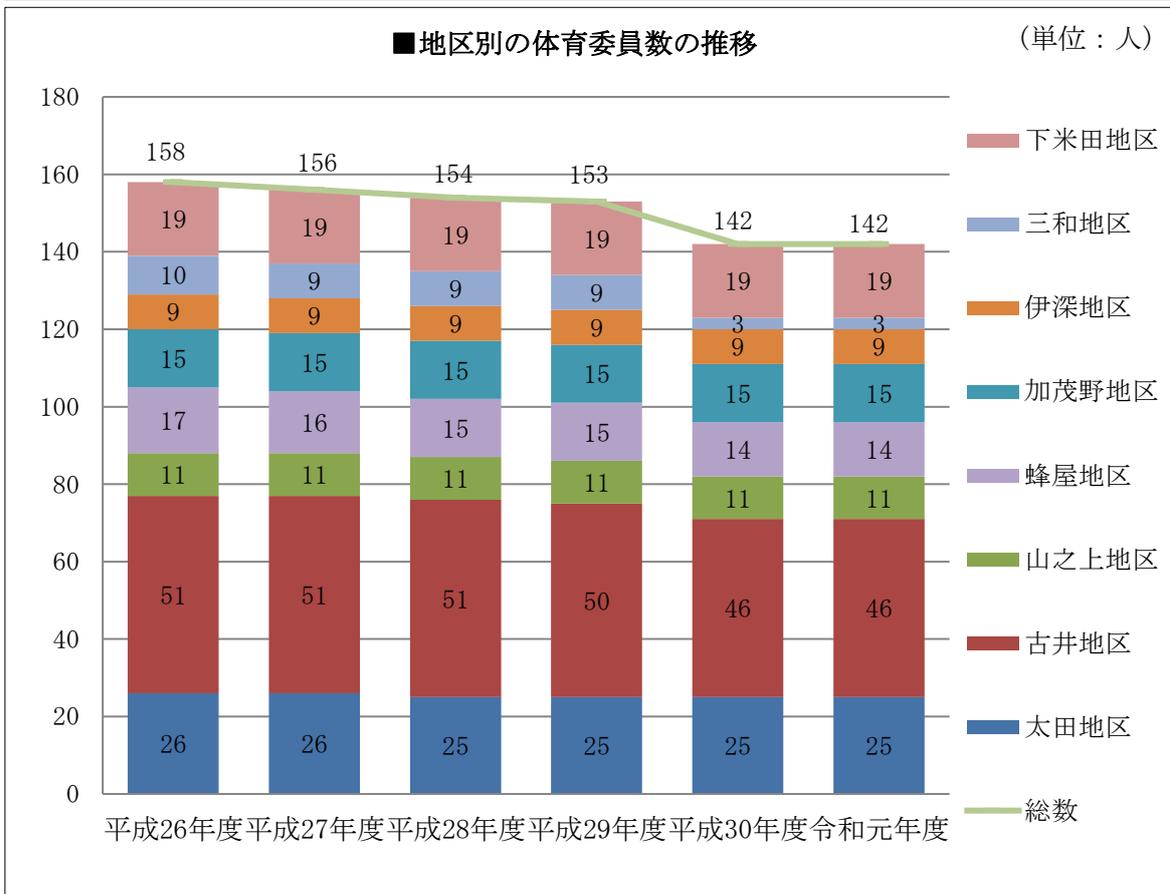
◎現状

8地区（太田、古井、山之上、蜂屋、加茂野、伊深、三和、下米田）の各自治会から選出された体育委員を中心に、それぞれの地区のスポーツ推進事業を展開しています。

なお、令和元年度現在、142名の体育委員を委嘱しています。

◎課題

体育委員は、各地区で行われるスポーツイベントの運営など、年間の活動回数も多く、多忙を極める中で、地域の要望にどのように応じていくかが課題となっています。



第3節 市民意識調査の結果に基づく現状と課題

市民のスポーツや運動に対する意識やスポーツの実施状況、施策ニーズなどを把握するため、市民意識調査を実施しました。

そして、調査の結果から本市のスポーツの現状と課題を分析しました。

《調査概要》

- ◎調査期間 令和元年6月26日（水）～7月12日（金）
- ◎調査対象 美濃加茂市在住の18歳以上を無作為抽出（1,500人）
- ◎回答者数 612人

①本市のスポーツ実施率の状況について

◎現状

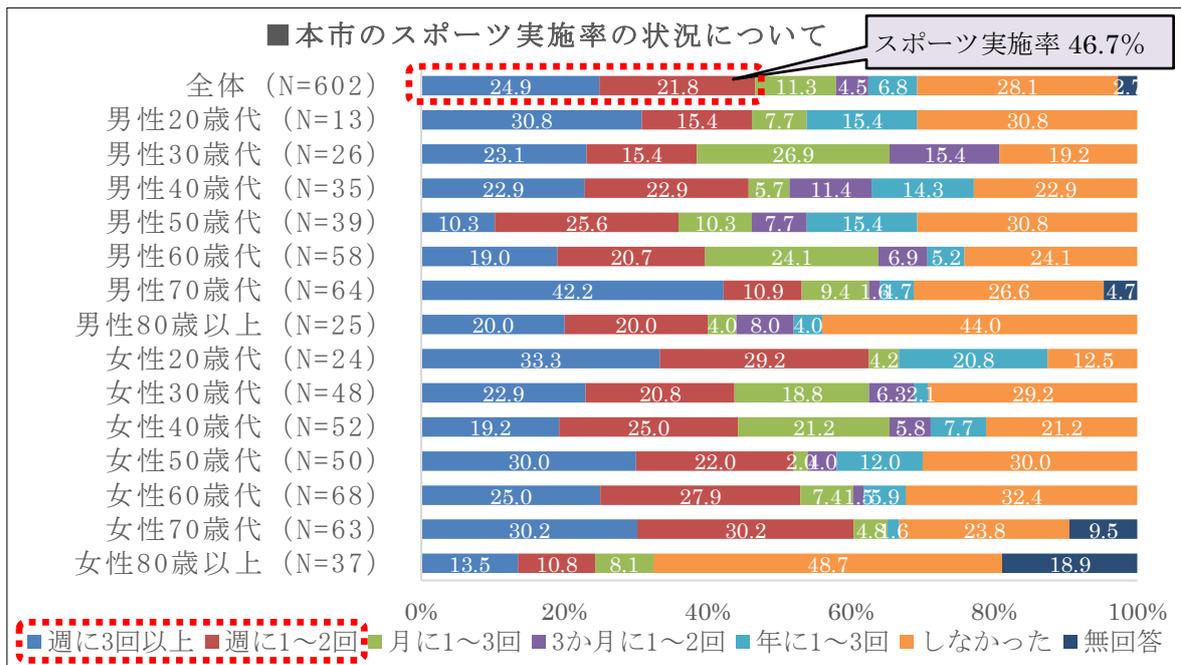
本市の成人の週1回以上のスポーツ実施率は、近年上昇傾向にあるものの、依然として国（55.1%、平成30年度調査）と県（48.6%、平成30年度調査）の数値を下回っている状況にあります。

とりわけ、男性では50歳代（35.9%）、女性では80歳以上（24.3%）の実施率が低い状況にあります。また、男性では70歳代（53.1%）、女性では20歳代（62.5%）の実施率が高い状況にあります。

◎課題

全体のスポーツ実施率を向上させるためには、全年代の底上げが必要であり、全年代の実施率を底上げのためには、ライフステージに応じたスポーツや運動を推奨していくことが必要となります。また、ビジネスパーソンや子育て世代などをはじめとした、スポーツや運動をする時間の確保が難しい世代に対するアプローチが必要となります。

全体を見てみると、この1年間にスポーツや運動を「しなかった」の割合が28.1%と最も高く、次いで「週に3回以上」の割合が24.9%、「週に1～2回」の割合が21.8%となっています。



【表1】本市のスポーツ実施率の状況について

②スポーツや運動をする目的について（週1回以上スポーツを実施している人）

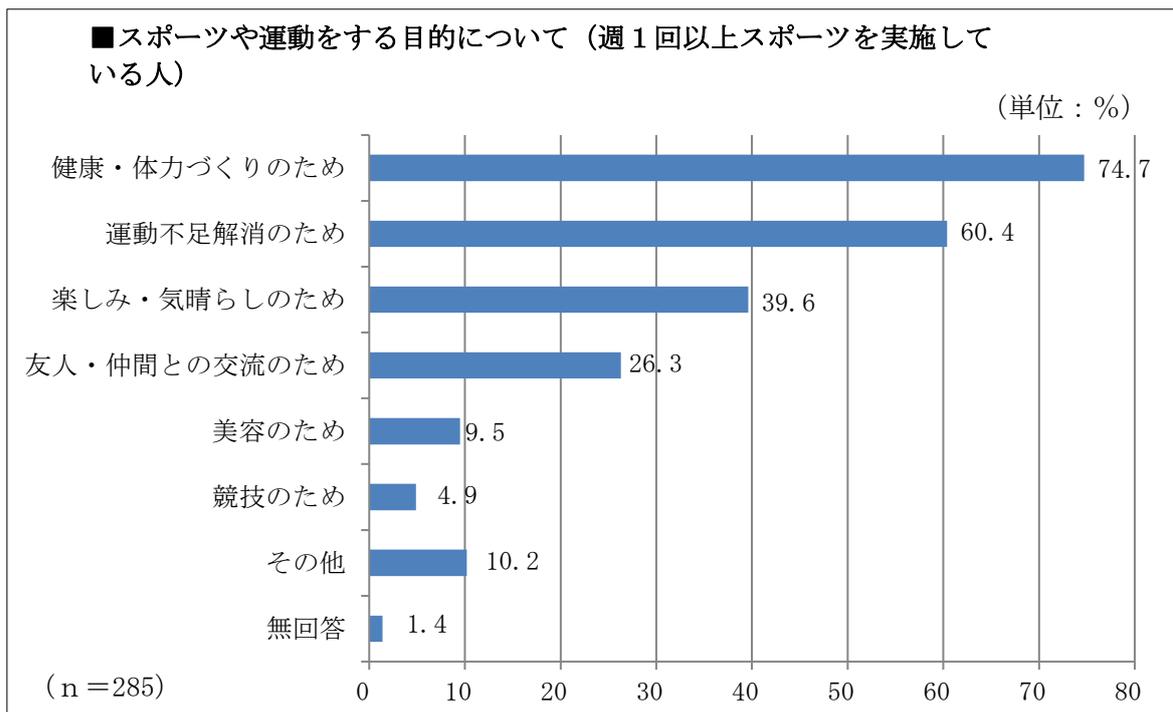
◎現状

週1回以上スポーツを実施している人たちの間では、スポーツや運動をする目的として「健康・体力づくりのため」が最も多く、次いで「運動不足解消のため」となっています。

◎課題

「健康・体力づくり」を目的とする取組を実施することで、スポーツの習慣化につなげ、スポーツ実施率の向上を図ることができそうです。

全体的な傾向として「健康・体力づくりのため」や「運動不足解消のため」など“健康志向”からスポーツや運動をされている方が多くなっています。



【表2】 スポーツや運動をする理由について（週1回以上スポーツを実施している人）

③週1回以上スポーツを実施するための条件について（週1回以上スポーツを実施していない人）

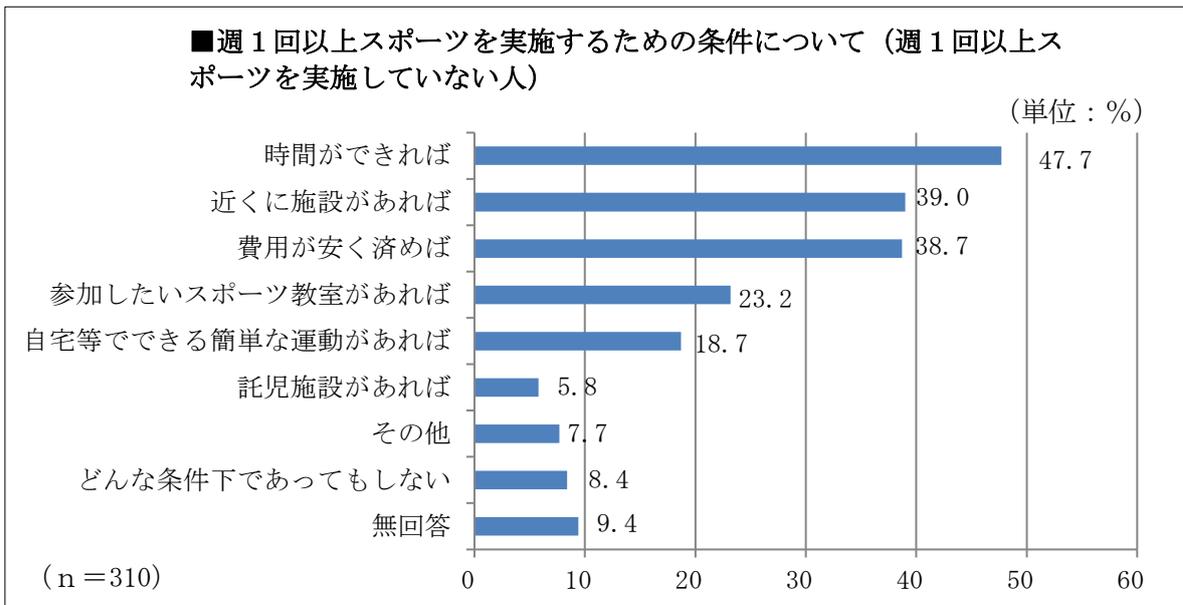
◎現状

現在、週1回以上スポーツを実施していない人が、週1回以上スポーツを実施するための条件として「時間ができれば」が最も多くなっています。

◎課題

週1回以上スポーツを実施していない人に対しては、スポーツ活動を行う時間を新たに作るのではなく、日常生活の中で行える体操やウォーキングなどを推奨する必要があります。また、スポーツや運動に対する意識を変えてもらい、「スポーツ・イン・ライフ」を実践できるような取組を実施する必要があります。

週1回以上スポーツを実施するための条件としては、「時間ができれば」が47.7%と最も多く、次に「近くに施設があれば」が39.0%でした。また、「どのような条件下であってもスポーツや運動をしない」が8.4%でした。



【表3】週1回以上スポーツを実施するための条件について（週1回以上スポーツを実施していない人）

④週1回以上スポーツを実施してみたいと思う理由について（週1回以上スポーツを実施していない人）

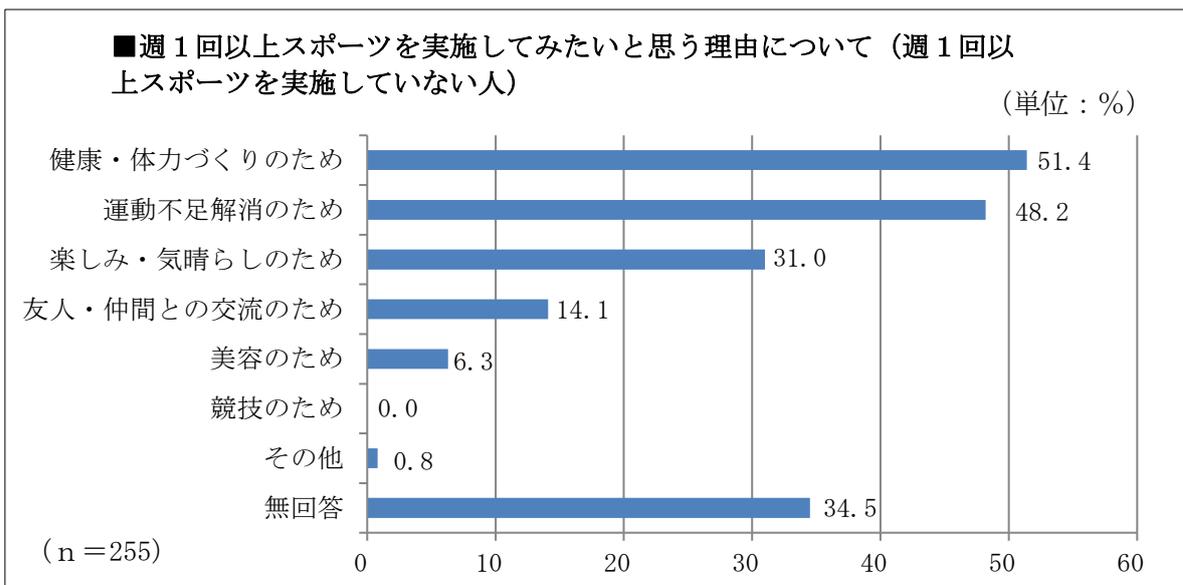
◎現状

週1回以上スポーツを実施していない人たちの間でも、「健康・体力づくり」のためであれば、週1回以上のスポーツを実施できると考えている人が、最も多くなっています。

◎課題

健康増進を目的としたスポーツ活動が、これからのキーワードとなります。

週1回以上スポーツを実施していない人たちの間でも、週1回以上スポーツを実施してみたいと思う理由として「健康・体力づくりのため」が51.4%と一番多くありました。



【表4】週1回以上スポーツを実施してみたいと思う理由について（週1回以上スポーツを実施していない人）

⑤これからやってみたいと思うスポーツや運動について（週1回以上スポーツを実施していない人）

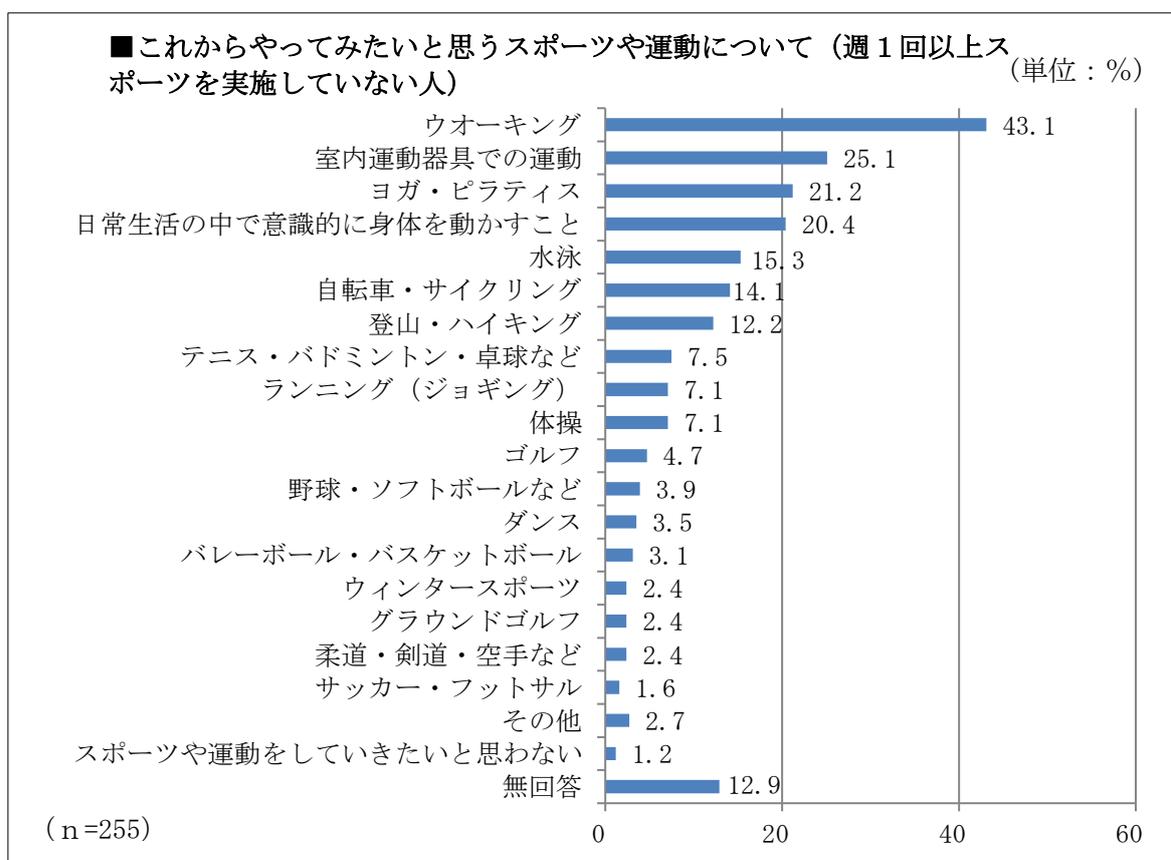
◎現状

週1回以上スポーツを実施していない人たちの間でも、これからやってみたいと思うスポーツや運動は、「ウォーキング」が圧倒的に多くなっています。

◎課題

日常生活の中で無理なく、手軽に行えるスポーツや運動を中心に、生涯にわたってスポーツに親しむことができるような取組を実施する必要があります。

これから、やってみたいスポーツや運動としては、「ウォーキング」が43.1%、次いで「室内運動器具での運動」が25.1%、ヨガ・ピラティスが21.2%となっており、手軽に取り組める運動に人気があるようです。



【表5】これからやってみたいと思うスポーツや運動について（週1回以上スポーツを実施していない人）

⑥参加したいと思うスポーツイベントについて

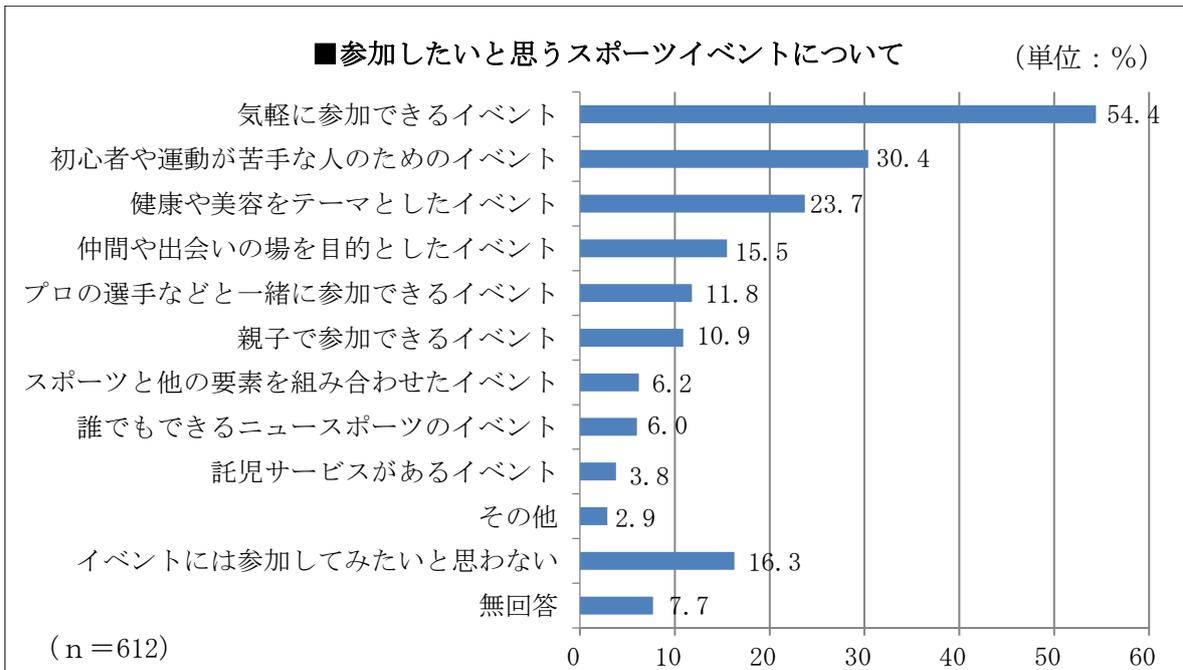
◎現状

「気軽さ」や「初心者向け」のスポーツイベントへの需要が高まっています。

◎課題

これまで、スポーツや運動に関心がなかった人たちの心を引く、イベントの開催や働き掛けの工夫が必要となります。

「気軽に参加できるイベント」が54.4%で最も多く、次いで「初心者や運動が苦手な人のためのイベント」が30.4%と続きます。



【表6】参加したいと思うスポーツイベントについて

⑦職場におけるスポーツや運動の環境について

◎現状

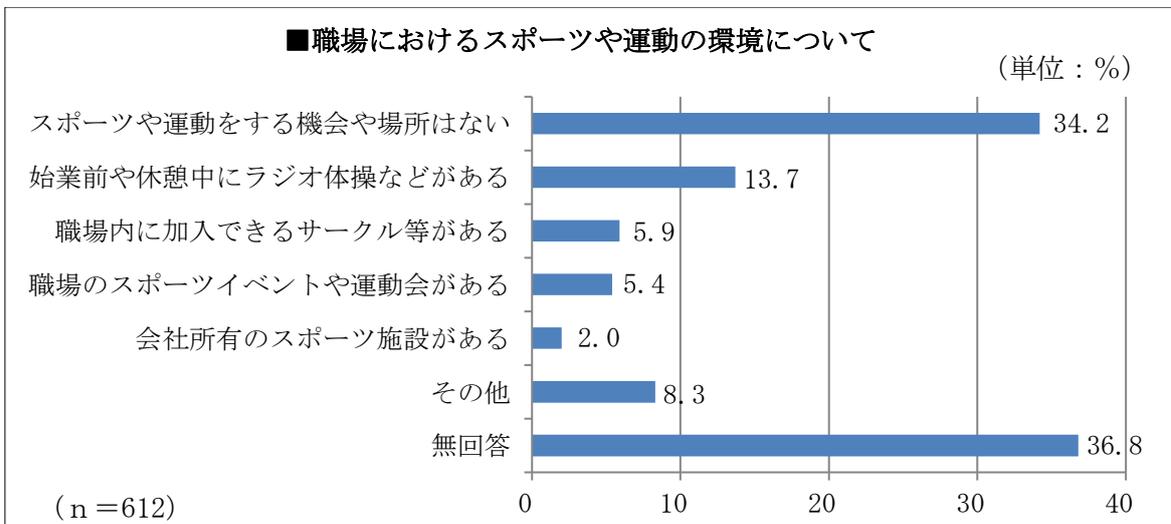
ビジネスパーソンがスポーツや運動に取り組める職場環境であるケースは、まだ少ない状況となっています。

◎課題

仕事で、スポーツや運動をする時間を確保できないビジネスパーソンには、通勤中の徒歩、勤務中の階段の昇り降りなど、仕事の延長上で無理なく意識的に身体を動かすことを推奨していく必要があります。

また、企業内でビジネスパーソンのスポーツ実施が向上するように、スポーツや運動を実施しやすい環境整備を事業者に促していくことが必要となります。

「スポーツや運動をする機会や場所はない」が34.2%で最も多く、次いで「就業前や休憩中にラジオ体操などがある」が13.7%と続きます。



【表7】職場におけるスポーツや運動の環境について

⑧過去1年間のスポーツボランティアの実施率について

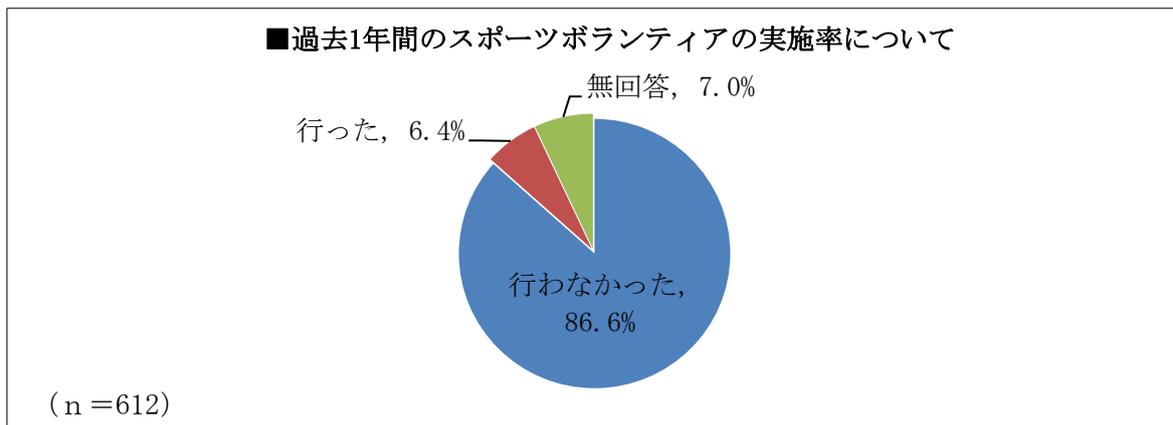
◎現状

本市における過去1年間のスポーツボランティアの実施率は、6.4%となっています。

◎課題

スポーツとの多様な関わり方として、スポーツを「ささえる」、スポーツボランティアの推進も重要な施策となります。

国の調査（平成26年度）では、全国のスポーツボランティアの実施率は7.7%となっています。



【表8】スポーツボランティアの実施率について

⑨スポーツボランティアの実施希望率について

◎現状

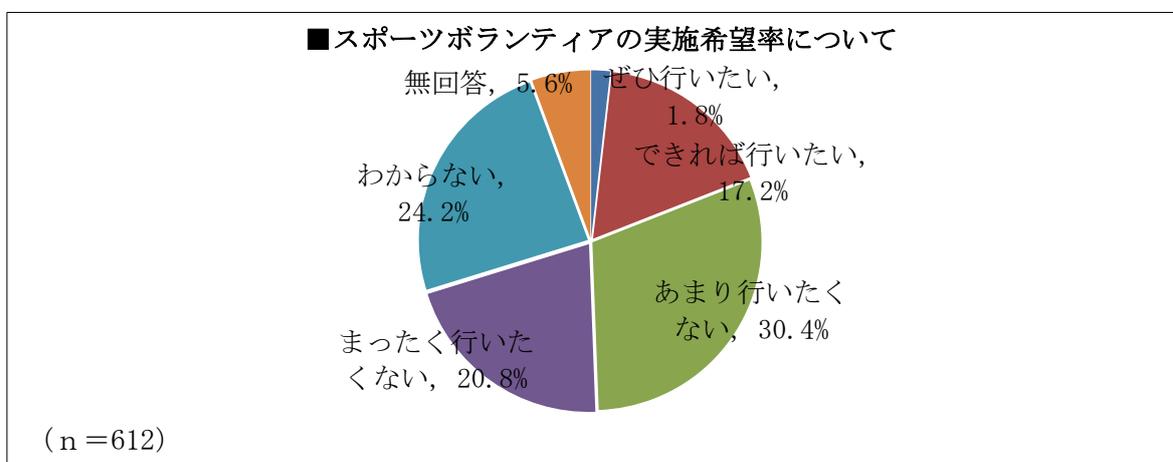
本市におけるスポーツボランティアの実施希望率（「ぜひ行いたい」と「できれば行いたい」と回答した人の合計）は、19.0%となっています。

◎課題

スポーツボランティアの実施希望率（19.0%）に比べ、実際の実施率が6.4%と低い状況にあります。今後は潜在的なボランティア需要を喚起する取組を行う必要があります。

《参考》

国の調査（平成26年度）では、全国のスポーツボランティア実施希望率は14.5%となっています。



【表9】スポーツボランティアの実施希望率について

⑩求められている指導者について

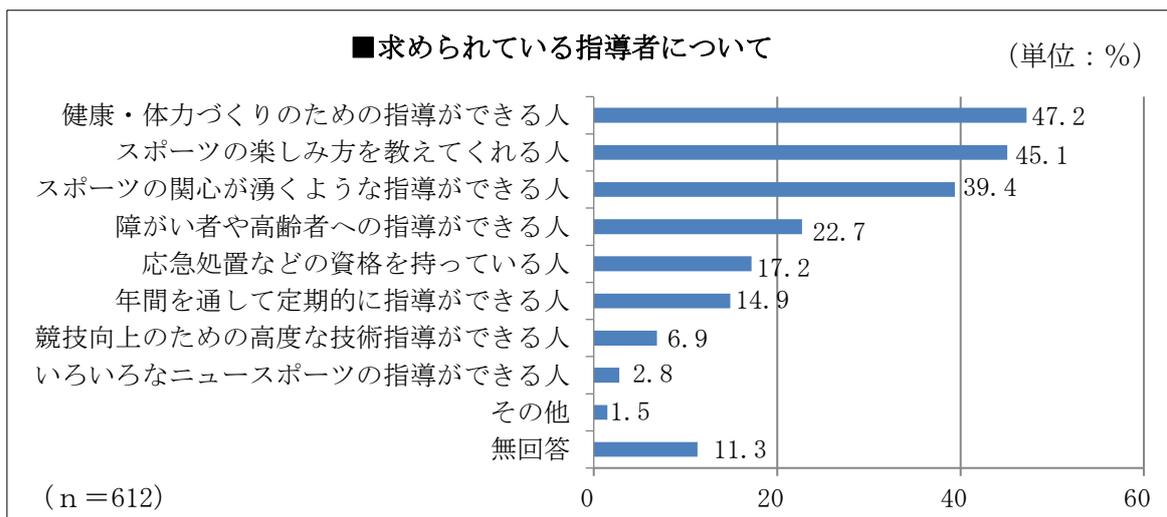
◎現状

求められている指導者は、多様化しています。

◎課題

多様化する市民ニーズを満たす指導者を育成するために、講演会や研修会を実施していく必要があります。

今、求められている指導者は、「健康・体力づくりのための指導ができる人」が47.2%と最も多く、次いで「スポーツの楽しみ方を教えてくれる人」が45.1%となっています。



【表10】求められている指導者について

⑪市のスポーツ施策として希望する取組について

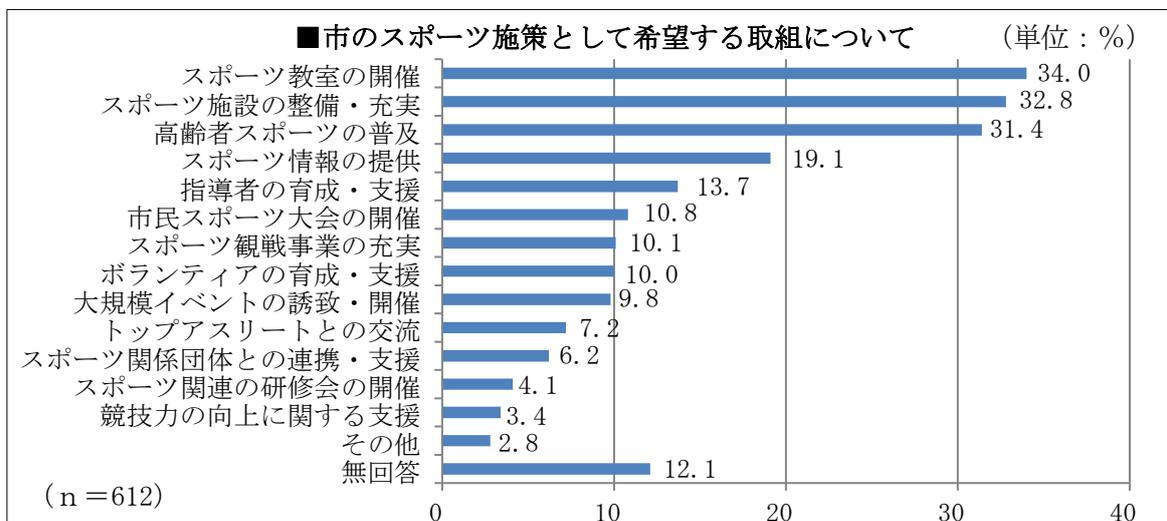
◎現状

市民が望むスポーツ施策は、多様化しています。

◎課題

多様化する市民ニーズを満たすために、より多くの施策を推進していく必要があります。

市民が、市のスポーツ振興に当たって希望する取組としては、「スポーツ教室」が34.0%と最も多く、次に「スポーツ施設の整備・充実」が32.8%でした。



【表11】市のスポーツ施策として希望する取組について